



四日市大学 学報 第70号

コロナ禍における 現在の授業風景



新型コロナウイルスに関連した肺炎患者の発生が、国内で初めて確認されたのは2020年の1月のことでした。その後、国内での感染が拡大したことを受けて、同年3月の学位記授与式（卒業式）は中止、そして2020年度の授業は全面オンラインでの始業を余儀なくされました。

その後、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐには、どうすれば良いのかという知見が徐々に蓄積されてきたことに伴い、本学では、その時々々の感染状況を注視しつつも、原則として教室での授業を再開してきたところです。

新型コロナウイルス対策をしながらの、いわゆるウィズコロナの生活も、二年になります。本学においても、新型コロナウイルス感染防止のための「新しい生活様式」を取り入れた授業風景が、すっかり日常となつています。そこで本稿では、このコロナ禍にお



副学長（教育・学生支援担当）
総合政策学部教授
小林 慶太郎

ける現在の授業風景の一端を、ご紹介しておきたいと思えます。

まず、大学構内への学生の受け入れについては、本学の立地する三重県内に緊急事態宣言が発令されていた際には、全ての授業をオンラインによる遠隔授業とし、課外活動・フィールドワークについても原則全面禁止とするなど、本学としても、厳しい措置を取っております。

その一方で、入退場の厳格な管理（出入口の制限・検温・手指の消毒・記名）を条件に、必要な場合には入構を認めるといった柔軟な対応をすることで、自宅で十分なデジタル環境が確保できない学生や、卒業研究のために実験を行いたい学生、就職活動などの相談のために窓口に行きたい学生などへの配慮も行い、学生の学修機会を確保できるよう努めて参りました。

緊急事態宣言解除後は、常時換気や、各校舎の入口等への消毒用アルコールの配置などの対策を行いつつ、原則全ての授業を教室で実施しています。

ただし、密集・密接・密閉の三密を避けるため、受講者数が多く教室内の座席の間隔を最低一メートル以上空けて着席することが難しい科目など一部の科目については、オンデマンドでの授業となっています。

次に、こうした新型コロナウイルス対策を取りながらの学生生活の中で

の、学生たちの変化についても、ご紹介しておきましょう。

多くの学生たちは、こうした状況にも順応しながら、遅く大学生活を送っています。オンデマンドでの受講となった授業では、動画を止めながら繰り返し復習することで確かな知識を身に付けようと真摯に取り組んでいる学生たちの声も耳にします。

学生たちの主催で行われている大学祭も、昨年度は中止を余儀なくされましたが、今年度は、入場を事前予約制にしたり、飲食などの模擬店を取りやめたりといった工夫をしつつ開催されました。大学祭の最後にサプライズで打ち上げられた花火は、多くの人を勇気づけるものとなりました。

コロナ禍にあっても立ち止まらずに自分たちの出来ることを前向きに模索し実現していくという学生たちの姿勢からは、我々大人が逆に教えられることも多くあるように思います。引き続き、コロナ対策を取りながら、学生たちの学修をしっかり支えていきたいと思えます。



特集

”新施設“を活用した 新たな教育に向けて



学長
岩崎 恭典

1988年に第一回の入学生を迎えて以来33年、全般的に施設は老朽化してきていますが、何とか使い続けています。そんな中、限られた施設更新の予算を使って、また大学同窓会、教育後援会からの支援をいただいて整備を進めているのが、先生方や学生諸君が、研究活動、ゼミ活動やクラブ活動、また勉強会や自習のために自由に使える、ラーニングコモンズなどの新学習施設、そしてトイレの整備です。

ラーニングコモンズなどの新学習施設は、スタイリッシュなテーブルと椅子を自由に配置でき、ホワイトボード、スクリーン等を設置して、様々な形態の学びを自由に行うことができる空間です。現在、情報センター（図書館）1階に「ラーニングコモンズ」、1号館2階の入試広報室横に「アドミッションセンター」、及び4号館2階CSC（キャリアサポートセンター）横に「多目的室」の3室を整備しています。

残念なことに、昨年のラーニングコモンズの本格的な供用開始とコロナ禍が重なってしまいました。学校自体の入構禁止措置、そして、遠隔授業の開始、その後の密を避けることを最重視した対面による授業の再開など、コロナ禍に翻弄されたため、顔を突き合わせて議論する場としての活用が期待されるラーニングコモンズを、十分使うことは今に至るまで出来ていません。

ただ、情報センター（図書館）1階の「ラーニングコモンズ」は、本学が三重県および四日市市の新型コロナワクチンの集団接種会場となった時に、待機場所として活用できましたし、1号館2階の「アドミッションセンター」は、オープンキャンパスの際に、模擬授業の場として活用されています。

情報センターの「ラーニングコモンズ」、4号館の「多目的室」は、それぞれ授業終了後も夜遅くまで使えるようにと、設置場所に配慮して作っただけに、できるだけ早く、アフターコロナ、ウィズコロナでの使い方を検討する場を学生諸君と設けたいと思っています。

一方、長年の懸案事項となっていたのが、男女のトイレです。特に、これまでは、和式便座が中心で、在学生のみならず、大学入学共通テストなどの際には、受験生からも苦情をいただいていた。

そこで、第一弾として学内にある「障害者用トイレ」の三カ所を誰でも使えるユニバーサル仕様とし、温水シャワートイレを設置しました。

次に第二弾として2号館1階のトイレを、女性専用トイレとして拡張し改装しました。本学庶務課の女性職員に、名古屋のいくつかの大学の評判のいい女子トイレを見学してもらい、設計段階から、パウダールームの配置や壁紙の色に至るまで、施工業者にいろいろと要望を伝え、実現したものです。供用開始前に、私も見学しましたが、明るく、華やかなパウダールームは、本学にこれまでなかったもので、ぜひ男子トイレにもこのようなスタイルのものを作りたいと感じました。その後、学友会の支援により、同館2階の男子及び女子トイレも改装したことを申し添えます。

施設は、いくら新しくなっても、その施設を十分活用して、学生諸君の成長につながらなくてはなりません。トイレは別としても、ラーニングコモンズなどの新学習施設に、朝から夜遅くまで学生や先生が集う姿が早く戻ってくることを願っています。



アドミッションセンター(1号館2階)



女子トイレ(2号館1階)

Topics

グッドプラクティス賞

令和2年度「Good Practice賞」表彰式を挙行了しました

2020年9月2日(水)に令和2年度前学期「Good Practice賞」の表彰式を挙行了しました。

「Good Practice賞」とは学生を対象に実施した授業改善アンケート等の結果に基づき、評価の高かった優れた授業や取り組みに対して学長が表彰するものです。前学期は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、本学も急遽実施した遠隔授業を円滑に進めるために組織された「遠隔授業推進ワーキンググループ(代表 環境情報学部長・教授 千葉賢)」が、遠隔授業の下支えとなり、本学学生の学び・学修の機会の確保及び全教職員・学生のITスキル向上に寄与したことから受賞しました。



右から岩崎恭典学長、千葉賢教授



左から岩崎恭典学長、加納光教授

2021年3月3日(水)には、令和2年度後学期「Good Practice賞」の表彰式を挙行了しました。

後学期は、授業アンケート上位10科目中6科目がランクインした日本語科目担当者(代表 総合政策学部 加納光教授)が受賞しました。

受賞理由は、留学生が大学の授業をより理解できるように、習熟度別に指導を行い、各学生の能力アップ、N1取得を目指し、日本語能力試験の受験を促進したこと。および留学生支援センターと情報共有(出席状況等)を図り、勉学に関わる相談など、きめ細かな対応に取り組み、留学生支援のサポートをしていること等です。

本学では、今後も教育改善・改革を推進するために、教員の優れた取り組みを顕彰し、より質の高い教育を実践してまいります。

特集

SDGs

“特定プロジェクト研究”から



伊勢湾流域圏のマイクロプラスチック問題の把握と対策

研究代表者 環境情報学部准教授 大八木麻希

環境問題として注目を集めているマイクロプラスチック（以下MPと略す）汚染について、伊勢湾流域圏で明らかにされていることは少ないため、全面的な流域圏全体の防止策や新たな問題解決にはつながらない現状の課題を抱えています。また、SDGsの第14番目の目標である豊かな海の保全を念頭に、伊勢湾岸流域圏の海岸、海底、海面及び河川でのMP分布調査、被覆肥料樹脂の分解及び流出実験、MPへの付着藻類の調査などを実施しました。本研究では、学内のみでなく学外から多分野の研究者でグループを作り、伊勢湾流域圏の主に三重



県中勢・北勢地区での多面的なMP定量化や挙動把握を行いました。各研究として、吉崎海岸のMP定期調査、員弁川の漂着ペットボトルの販売年分布調査、伊勢湾底泥のMP調査、

伊勢湾のマイワシの消化管内のMP挙動、水田における被覆肥料樹脂の残留・流出量分析、高松干潟から得られた各種のプラスチックごみに付着した藻類組成について、詳細に調査・分析を行い、今後のMP研究の基礎となる知見を得ることができました。さらに、この研究内容は学内の教育活動、一般向けの高校への出張講義、市民講座など多くのアウトリーチ活動で役立てられました。

四日市市における食品ロスの削減を目指す

総合政策学部特任教授 松井真理子

食品ロスの削減について、SDGsでは「2030年までに半減」させるとし、日本でも食品ロス削減推進法によって、国、自治体、事業者、消費者等による国民運動として取り組むこととされています。本研究はこのような背景のもと、四日市市と連携しながら、食品ロスの発生源となる食品事業者と消費者を中心とするコレクティブインパクト（行政、企業、NPO、学校等が、共通の社会課題の解決を目指すアプローチ）の研究を行っています。

2019年度から3年間の計画で、初年度は海外を含む先進地視察と食品事業者の実態調査、2年目は食品事業者へのヒアリングと消費者への食品ロスダイアリーの試行、3年目は食品事業者と消費者との対話とスーパーの青果の廃棄状況調査を行ってきました。その結果、食品ロスの削減に取組む事業者が多いこと、家庭の食品ロスの2大原因は「料理の作りすぎ」と「パックや袋入りの野菜・果物の品質劣化」であること、スーパーと消費者の行動は表裏の関係にあること等が明らかになっています。

これらの成果を基に、生産者、食品事業者、消費者等が協働で取り組める事業や、四日市市内に循環型の「食の学び」ゾーンの創出等の政策提言を、現在検討中です。

北勢地域における森林価値再発掘と

里山圏資源循環モデルの構築

環境情報学部准教授 廣住豊一

北勢地域は豊かな森林や里山に恵まれています。しかし、現在の森林や里山は、生態系の破壊や変化に加えて、放棄竹林による里山の荒廃や獣害等の課題も抱えています。森林や里山は地域の基盤産業である農業を支えており、地方創生の観点からも森林や里山の再生と保全を進める必要があります。

この特定プロジェクト研究では、森林で生活する野生動物の調査を通じて森の豊かさを再発掘するとともに、里山の荒廃程度を把握するための健全度評価や、里山域で問題となる獣害調査を実施しています。また、里山荒廃の原因となる放棄竹林問題に対応するため、竹林間伐材を中心とした里山資源の循環モデルの構築を目指しています。

令和2年度には、北勢地域の森林における野生動物の生態を調べるために行われた御在所岳周辺のニホンジカの調査結果がまとめられました。また、四日市北部地域における森林被覆の変遷の調査が行われました。里山環境の調査については、竹林健全度を定量的に観測する手法の検討を行い、竹林の現状把握が行われたほか、里山における野生哺乳類相と獣害状況の調査、竹林間伐材の農業利用に関する実験が進められました。これらの活動は令和3年度以降も継続して取り組んでいます。



Topics

四日市市との 包括連携協定締結

2021年1月25日(月)に四日市大学は、まちづくりや地域貢献、教育・学術研究の推進、人材育成などのさらなる発展を目指すことを目的に、四日市市と包括連携協定を締結しました。四日市市役所で開かれた締結式には、市からは森智広市長、政策推進部の佐藤恒樹部長が出席し、本学からは岩崎恭典学長、松井真理子副学長、小林慶太郎副学長、鬼頭浩文副学長らが出席しました。式では、協定書に岩



崎学長と森市長がサインをし、岩崎学長からは「さまざまな形で地域に貢献する大学でありたい」と話し、森市長からは「これまでも防災活動やイベントなどさまざまな市民活動でお世話になっていて、今回の協定を機に、新しい一歩を踏み出せたい」とあいさつがありました。

本学は四日市市との公私協力型の大学として様々な連携活動を行っていますが、この度の包括連携協定の締結により、地域貢献型大学としての内実をさらに強めていきたいと思えます。

「大型図書除菌機」

「ご寄贈へのお礼」

この度、岡本土石工業株式会社および株式会社南都銀行から、大型図書除菌機を情報センター(図書館)にご寄贈いただくこととなり、その寄贈式が2021年10月19日(火)に開催されました。この図書除菌機は、図書を開いた状態で紫外線を照射し、頁の間まで除菌可能な非常に除菌効果の高いもので、三重県内の大学等高等教育機関の図書館では初の導入となります。

寄贈式には、南都銀行本店営業部長 乾士郎様、岡本土石工業代表取締役 岡本一彦様、岩崎恭典学長、加納光情報センター館長、千葉賢環境情報学部 長、小田久洋事務局長、他の職員、宗村昌子学校法人 南都銀行の乾様からも列席いただきました。

南都銀行の乾様からは、今回の寄贈が岡本土石工業株式会社によるSDGs 私債の発行手数料の一部を活用した寄贈であること、岡本土石工業の岡本様からは除菌機導入による図書館のさらなる活性化への期待が語られ、最後に、岩崎学長から、寄贈に対する感謝の意が述べられました。



岡本土石工業代表取締役 岡本一彦様、岩崎恭典学長、南都銀行本店営業部長 乾士郎様(左から)

今回の寄贈は、8201教室の大型スクリーンに次ぐもので、本学の教育・研究活動に大いに役立つものです。多数の人に触れられる図書の除菌は、コロナ禍のみならず、その終息後の情報センターの日常業務にも、とても有効的な機器です。積極的に活用させていただきます。

名誉教授称号授与式

名誉教授称号授与式が行われました。

四日市大学に長年在籍し、教育面や学術面で顕著な功績を挙げた2氏に対し、2021年7月7日(水)に四日市大学役員室で名誉教授の称号を授与しました。

授与式では、岩崎恭典学長から名誉教授の称号が授与され、教育、研究上の功績や本学への貢献に対して感謝の言葉が述べられました。また、これからも健康にご留意頂き、研究をはじめ、様々な面で本学を支えていただきたい旨の挨拶がありました。

今回、名誉教授の称号を授与された方は次のとおりです。



小川先生 田中先生 岩崎学長

- 環境情報学部 元教授 田中 正明
 - ・元環境情報学部長
 - ・現四日市大学研究機構生物学研究所所長
- 環境情報学部 元教授 小川 東
 - ・元研究機構長
 - ・現関孝和数学研究所副所長



今後どうなる？

イギリスとEUの関係

総合政策学部学部長・教授 鶴田 利恵

2016年6月の国民投票によって始まったイギリスのEU離脱(ブレグジット)の物語は、自由貿易協定交渉が行われた1年間の移行期間を経て2020年12月31日深夜に完了し、イギリスは新しい時代を迎えることになりました。ただ、この新時代がイギリスにとって吉と出るか凶と出るかどうかは「神のみぞ知る」といったところではないでしょうか。

ブレグジット推進派は「自由を手にした」、「国家主権と民主主義にとつての勝利」などと喜びの声をあげましたが、一方で、金融サービスを中心とした「イギリスの経済の悪化」を懸念する声も多く聞かれます。

そもそも、ヨーロッパの経済統合に対して、イギリスは当初よりドイツやフランスとは異なるスタンスをとってきました。イギリスの元首相であったチャーチルは、歴史的に有名な1946年の「チューリッヒ演説」で欧州会議設立の重要性を主張しましたが、その後発足した戦後ヨーロッパの最初の経済統合体であるECS C(欧州石炭鉄鋼共同体)に、イギリスは参加しませんでした。それどころか、イギリスは大陸の経済統合の進展に対抗するように、1960年にEFTA(欧州自由貿易連合)を創設し、オーストラリアやスウェーデンなどEEC(欧州経済共同体)に参加していない国との間で自由貿易を開始したのです。

ところが1973年に、今度は、EFTAを脱退してEC(欧州共同体)(ECS C、EEC、ユーラトムを合体させた現在のEUの前身)に加盟するという行動に出ます。急速に進むヨーロッパの経済

統合の恩恵を逃さまいとする熱意の表れだったのでしょうか。

また、現在EU加盟国のうち19カ国が導入している共通通貨ユーロもイギリスは導入していませんでした。歴史を語るときに「たら・れば」はタブーかもしれませんが、イギリスがもしもユーロを導入していたとしたら、今回のブレグジットは、そもそもその発想さえ起きなかったかもしれません。

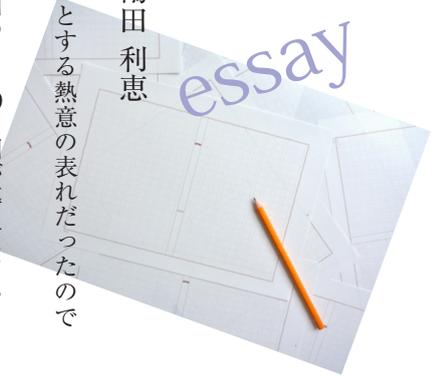
このように、イギリスの欧州統合に対するスタンスは常に「つかず離れず」の状態だったように感じられます。それでは今後はどうなるのでしょうか。これまでのイギリスの欧州統合に対する姿勢をみると、もしかしたら再び「EU復帰」なんてこともあり得るのではないかと考えてしまいます。

冒頭の国民投票のEU離脱支持は52%という微妙な数字でした。イギリス国民の間で、「やはりEUの加盟国としての経済的・政治的メリッ



トの方が大きいのだ」という機運が高まれば、可能性はゼロではないと思っております。

そのような予測をしながら国際情勢をみているのは結構楽しいものです。



令和3年度

四日市大学教育後援会 役員一覧

役職名	氏名
会長	上岡 治生
副会長	徳丸 敏行
書記	舘 幸樹
会計	田村 由美子
監査	田上 和彦
監査	池尾 晃則
幹事	小野 喜照
幹事	平尾 茂樹
幹事	今村 奉史
幹事	西野 友紀
幹事	諸岡 功一



▲ 座談会の様子

2021年度特待生認定者

学部	学年	氏名
総合政策学部	3	藤井 海斗
	2	大西 裕馬
	2	小塚 秀亮
環境情報学部	2	佐藤 建
	2	西野 純怜
	2	野本 敦之

2021年11月2日に特待生認定証の授与式が行われました。本学の特待生制度は社会に貢献できる人材を育成することを目的に、学業成績が優秀な学生に対して奨学金を給付する制度です。本年度は6名の学生が認定されました。

授与式終了後、大会議室にて特待生と岩崎学長、小林副学長を交えた座談会が行われました。座談会では学生から厳しい要望・意見も出されましたが、岩崎学長からは前向きに捉え、改善に取り組みしていく旨の返答がありました。

特待生と学長・副学長による座談会

活動報告

吉本興業と連携した 「中入道プロジェクト」 がスタートしました

吉本興業株式会社は、「住みます芸人プロジェクト」という事業を、全国の都道府県で展開しています。同社所属の芸人を地方に住ませ、地域活性化に貢献させる、というもので、三重県では「オレンジ」という漫才コンビの一人、オレンジ田中さんがさまざまな活動をされています。オレンジ田中さんは、現在、近鉄四日市駅前の商店街にある「中入道」を生かした地域活性化に、四日市農芸高校の生徒たちと一緒に取り組んでいます。

この「中入道」を生かした新しいプロジェクトに、総合政策学部の松井真理子特任教授のゼミが参加することになりました。「中入道」を生かしたお菓子を四日市大学生が企画し、それを商店街内の障害者事業所（伊勢おやき本舗）で製造し、高齢者施設で販売するというものです。9月30日に行われたオンラインでのゼミに、オレンジ田中さんとマネージャーさんも参加して、学生たちに説明していただきました。

松井ゼミでは、SDGsに取り組んでおり、このプロジェクトがSDGsにどう位置付けられるかを松井特任教授から解説されました。重要なポイントは「高齢者向けのお菓子」です。柔らかく、のどに詰まらず、誤嚥もしにくい美味しいお菓子は、赤ちゃんの離乳食や糖尿病等の方にも向きます。「だれ一人取り残さないお菓子」を、これから学生たちが企画していきます。



MUJीडesignのあさけが丘 市営住宅に学生が住んで地域支援

本学と四日市市は、住民の高齢化が進み、地域活動が滞りがちという課題がある四日市市のあさけが丘市営団地に学生を入居させ、地域活動にも参加することで、地域の活性化につなげることを目的とした協定を結びました。古い市営住宅は、内装設計を無印良品が行い、フォレストオモリが施工することで、オシャレで快適な部屋に生まれ変わっています。

そして、何よりも魅力なのが家賃です。敷金礼金はゼロ、家賃は自治会費込で約一万円と破格です。無印良品などの民間企業、四日市市、そして本学による「産官学連携」で実現したプロジェクトです。

現在、3年生2名、4年生2名が入居しており、自治会のお手伝いや「地域バトロール部」と連携して、見守り活動を行っています。

令和4年4月には、4年生2名が卒業しますが、新たに2部屋を改装中ですので、来年度は新2年生2名、新3年生2名の計4名を新規に募集します。

来年度は、コロナ禍が収束し、入居した6名の学生が地域でのサロン活動など、多くのコミュニケーション支援ができることを願っています。



四大祭

2021 New Wave！四日市大学 を開催しました

2021年10月23日（土）にコロナ禍のため12年振りの四日市大学単独開催となった大学祭、四大祭2021 New Wave！四日市大学を開催しました。

飲食模擬店などはありませんでしたが、中京テレビ「キヤッチ！」でお馴染みの気象予報士 石橋武直さんをお迎えして行った特別講演会や、四大祭ならではのアカデミッ

クな企画、定番のカラオケ大会などが行われ、朝から夜まで楽しめる内容となりました。

そして、今回は新型コロナウイルス退散への願い、大学祭が開催できた喜びの思いを込めて、打ち上げ花火を企画しました。

ファイナーレイイベントと題してサプライズで行われた打ち上げ花火は、四大祭のファイナーレを華やかに彩ってくれました。

四大祭開催にご協力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様、You Tubeチャンネルでの生配信を視聴していただいた皆様、本当にありがとうございます。



2021年度全日本学生テニス 選手権大会(インカレ)の結果

2021年8月12日から24日まで、四日市テニスセンターで開催された「2021年度全日本学生テニス選手権大会」のシングルスに、総合政策学部4年の北村真梨奈さん、同部4年の山本智花さん、同部2年の谷川大雅さんの3名が出場しました。

3選手とも、全国大会への出場は初めてですが、地元四日市市で開催されるだけに、気合、集中力も高まっており、「気持ちで初戦突破を目指したい」と意気込みを語っていました。

試合結果は、女子シングルの予選に出場した北村さんと山本さんは1回戦で敗退し本戦までコマを進めることは出来ませんでした。男子シングルの谷川さんは、本戦の3回戦まで勝ち進みましたが関西大学の松田選手に敗れてベスト32という結果に終わりました。コロナ禍で制限された練習環境の中で、全国大会出場を目指して勝ち取った3名の今後の活躍に期待してください。



三田部長、北村さん、山本さん、谷川さん、岩崎学長



日本留学AWARDS
上位/ミネト校
Nihon-Ryugaku Awards
2021 shortlisted

2021年日本留学アワード表彰式が、9月24日にオンラインにより行われ、大賞は逃しましたが、ご推薦いただいた日本語学校の先生、職員の方々に深く感謝申し上げます。

日本留学AWARDSは、一般財団法人日本語教育振興協会が主催する「日本語学校教育研究大会（専門委員会）」が、多くの日本留学を志す外国人留學生の環境整備に貢献することを目的に2012年に創設した名誉ある賞です。

全国の日本語学校教職員が留學生に勧めたい進学先として、大学文科系・理工系、大学院など部門ごとに東西地域の上位校を選出します。

上位入賞！

2021年日本留学AWARDS

村川さんからは、「1日でも早く支配下になり、自慢の足でアピールしていきたい。」と抱負が述べられました。

当日は、マスコミの方々も多数お見えになり、取材をしていただきました。今後の村川さんの活躍に期待しましょう。



横浜DeNAベイスターズ育成1位指名を受けた卒業生の村川風さんが表敬訪問されました！

2021年10月11日の今年のドラフト会議で、横浜DeNAベイスターズより育成ドラフト1位で指名を受けた村川 風さん（21年度総合政策学部卒・徳島インディゴソックス所属）が、岩崎恭典学長を表敬訪問されました。岩崎恭典学長、若山裕晃野球部長、黒田司野球部監督が迎え、まず村川さんより、ドラフト会議指名の報告が行われました。それを受け、岩崎学長からは「おめでとう！四日市大学初のNPB選手誕生を嬉しく思います。これから大変な世界に飛び込みますが、身体には十分気をつけて頑張ってください」と激励の言葉が述べられました。

就職活動（2020年度報告・2021年度状況）

キャリアサポートセンターより

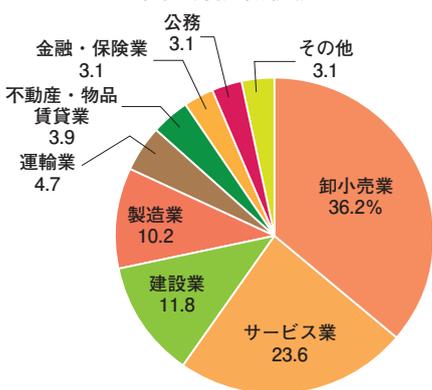
2020年度卒業生の就職結果

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、例年とは全く違う様相を呈した就職活動でした。相次ぐ就職イベントの中止やオンライン面接に学生たちは手探りの状態で就職活動を進めてきました。そんな中、2020年度の就職率は98.4%（未決定者2名）という高い数字となりました。これは、キャリア教育の充実ときめ細かな就職活動支援行事に加え、学生を「最後の最後までサポート」するキャリアサポートセンターの支援体制、そして何より学生の努力の結果であると確信しています。

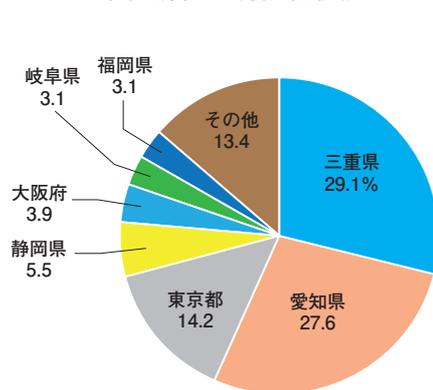
今後新型コロナウイルスの影響は続くと思われまます。キャリアサポートセンターでは更に個々の学生に適した支援を行っていきたいと考えております。

業種別就職状況は、卸小売、サービス、建設の順で多くなっています。また、公務員養成に力を入れていることもあり、微増ではありますが着実に増加傾向となっています。今後も公務員を始め、地元企業で活躍できる人材育成に取り組んでまいります。

業種別就職状況



本社所在地別就職状況



主な就職先・進学先

水谷建設 / 東産業 / アサヒグローバル / 土木管理総合試験所 / トピア / ジャパンマテリアル / 本田技研工業 / クラウン・パッケージ / テツゲン / 三岐鉄道 / 引越社 / 扇港電機 / 三重日立 / トーシンホールディングス / トップ / グリムス / ユニー / オークワ / スーパーサンシ / マックスパリュウ東海 / 杏林堂薬局 / アインホールディングス / 北伊勢上野信用金庫 / いちい信用金庫 / 東京建物不動産販売 / レンタルのニッケン / エヌエス環境 / アサンテ / 戸田屋 / ラウンドワン / 総合資格 / 尾鷲市役所 / 四日市市役所 / 三重大学大学院 / 関西学院大学大学院

4年生の就職活動状況

新型コロナウイルスの影響で就職環境にも変化が見られ、学生たちは戸惑いと不安の中、就職活動が始まりました。早々と内々定をもらい就職活動を終了する学生が多く見受けられた反面、就職が決まっていない未内定学生がいるのも現実です。就職活動は終盤を迎えています。まだまだ中小企業は採用を継続しています。キャリアサポートセンターでは未内定の学生に対して来課を促し、就職相談、履歴書添削、模擬面接など就職支援を行い、就職希望の学生全員が内定を獲得できるようにサポートを続けます。

3年生就職活動支援行事（2022年）

月日	行事
1月12日(水)	【留学生対象】第2回就職ガイダンス「日本の就職活動対策」
1月13日(木)・14日(金)	履歴書用写真撮影
1月18日(火)・20日(木)	就職活動研修会の説明会
1月19日(水)	第17回就職ガイダンス「就活解禁直前対策」
2月7日(月)~14日(月)	第2回就職試験対策講座
2月15日(火)	就職活動研修会

